

幼児から高齢者まで多くの人々との多様な交流を通じて活力と魅力溢れる地域づくり
～家庭教育支援を軸として～

雲南市加茂公民館

1. 加茂公民館の概要

加茂町は雲南市の北端の位置にあり、松江市、出雲市、斐川町に隣接し、道路や上下水道などの生活基盤の整備が進み、利便性、快適性に優れた住みよい町である。

平成16年旧大原郡3町、旧飯石郡3町が合併して雲南市となった。現在の加茂町は人口約6600人、世帯数約2000、高齢化率約30%の地域である。

これまでは「遊学の郷・加茂」をキャッチフレーズに「楽しく学べる環境づくり、快適に過ごせるまちづくり」をめざして、住民参加の生涯学習活動や、スポーツ活動、加茂岩倉遺跡や文化財を活用したまちづくりに努め、生き生きとした活動が展開されてきた。

加茂公民館は開館3年目の新しい公民館であるが、社会教育施設として、住民の皆さんの生涯学習・地域づくりの活動拠点として、各種学習機会（講座）の開催、子育て支援（放課後居場所づくり）14の自主組織団体、趣味のグループ活動等の支援をしてきた。

2. 事業の概要

(1) はじめに

① 実証事業名 幼児から高齢者まで多くの人々との多様な交流を通じて活力と魅力溢れる地域づくり事業

② 実証事業のテーマとねらい

乳幼児をもつ母親のグループ「苺くらぶ」は公民館と連携して自主的な活動を展開しており、育児・料理活動を通して安心して子育てができる環境をつくるのが活動のねらいである。このグループの活動を軸として、地域の人と人・心と心がつながり地域も子どもも元気になることをめざす。

このグループの活動をより深めたり、輪を広げたり、またこの自主的な活動を利用して地域力を高めるために、公民館は次のような団体や活動・事業とグループとをつなげていく。子育て支援センター、小学生の親子活動、公民館のホットサロンに参加する高齢者、放課後子ども教室に参加する児童や指導者、異世代間の交流事業、地域ボランティアスタッフ等。

そのためには、地域の多様な人材を巻き込んだ活動ができる計画・支援を行い、自主的な公民館活動の推進を図りたい。

(2) 具体的な取り組み

① 子育てサロン・講座の実施

子育てグループ「苺くらぶ」は毎月1回、安心して子育てができるよう離乳食講座を実施し、食材や味付け等の不安の解消を図り、子育ての楽しさ、悩みを自由に話し合う子育ておしゃべり広場を開催している。

8月は「夏休み親子クッキング教室」を開催し、



乳幼児を含め80名の参加があり大賑わいの教室となった。

指導者から、加茂町産の野菜の安全、安心についての説明の後、子どもたちは「ホットケーキ」「たこ焼き」にチャレンジし、若いお母さんはカレーライスやフルーツヨーグルトを作り、みんなで楽しい会食ができました。当日は孫と一緒にのおばあさん、チャレンジスクール「保育士トライ」の小学生の参加もあり、お母さんの調理活動の間、乳児の保育に挑戦することができた。



② 親子活動支援の取り組み

幼・小学校の親子に呼びかけ、手作り弁当を作ったり、バスを利用した町内巡りを実施し、加茂町の様子を知ったりして、幅広い活動を展開している。又、雲南市は第3土曜日を「家庭の日」としているが、加茂公民館は第3土曜日を中心に親子活動として、料理教室、読書教室、創作教室等を実施している。

夏の思い出「ぶどう狩り」。町内にはぶどうを栽培して農家があるが、町内めぐりとしてぶどう園を開放していただき、親子で楽しい「ぶどう狩り体験」することが出来た。ぶどう作りの苦労や、おいしいぶどうについての説明を聞き加茂町の名産であることを知った。

③ 放課後子ども教室の取り組み

放課後公民館に来館する児童と、苺くらの幼児・母親との自由遊びと交流。

・ チャレンジスクールとの連携

毎月第4土曜日に子ども向けの生涯学習講座(チャレンジスクール)を実施しており、今年度は10の講座を設け、その中に乳幼児を対象の「保育士トライ」は、幼児の世話等を体験し、乳幼児に対する理解を深めている。「日本のこころ(茶道)」は親子・祖母の参加もあり、地域の行事にも参加し、お茶席を設け、地域の皆さんとの交流を深めている。



④ 高齢者との交流

公民館のホットサロンに参加している高齢者に、子育ての大先輩としての経験を乳幼児との遊び・おやつ作り等の交流を通して教えてもらう。

- ・ 昔のおやつづくり
- ・ 昔の遊び
- ・ お年よりの生活の知恵

毎週月曜日のホットサロンでお茶を飲みながら昔を懐かしむ話題がいつも尽きない高齢者の方が、昔よく食べていたおやつ「炒りごめ」の再現に挑戦され、出来上がった炒りごめを新聞紙に包み、子供達に配り、一緒にたべ楽しい交流ができた。又、大晦日に食べていた「おおかぶ汁」「汁ため」の再現にも挑戦され、市のケー



ブルテレビでも放映され、「我が家の自慢の味」を作ってみませんかとピーアールができた。

⑤ 異世代の交流事業の実施

地域にはそば作り、うどん作り・注連縄づくり等子ども達から名人さんと飛ばれている方が多数いる。その方を中心に特技を生かした異世代間の交流事業を実施し、地域ぐるみの人的交流を呼びかけ、幅広い世代の住民を巻き込み、地域の活性化を図る。

・うどんづくり ・注連縄づくり

・木工教室 ・陶芸教室

異世代交流うどんづくり

地元自主組織で栽培したうどん粉を使った「うどん作り」を苺の会・自主組織のメンバーに高齢者の参加を呼びかけ、賑やかに、うどん打ち、うどんの会食を実施した。



練ったうどん粉を参加者が何回も足で踏み固め、麺棒で伸ばし、茹でたり等役割分担を果たし、おいしい地元のうどんを楽しく試食ができた。

⑥ サポーター制の整備

放課後子ども教室の実行委員・指導者、ボランティア指導者との連絡・情報交換の場を開催し、地域住民の積極的なボランティア活動を呼びかける。

⑦ 情報発信への取り組み

・公民館便りの全戸配布 ・子育て支援特集号の作成

3. 事業の成果と課題

(1) 次代を担う子ども達の健全な育成（地域の多様な人材を巻き込んだ活動）

公民館では毎年町内のお寺で「緑陰子どもの集い」を小学校の5・6年生を対象に開催している。座禅・飯ごう炊飯・キャンプ等の活動を通して地域のリーダーを育成するものである。この指導者には加茂仏教会・民生委員・居場所の指導員の方のボランティアがあり、自然に恵まれた環境の中で、充実した内容の研修ができた。今後は父親の参加・協力が課題である。

「加茂見守り隊」の結成。浜田市で起きた事件を受け、子ども達が凶悪な事件に巻き込まれないように、公民館で「見守り隊」の嚮を作り、広く呼びかけを行った。定時の見守りではなく、散歩・ウォーキング・買い物・通勤、帰宅途中等のついでに、さりげなく「見守ってもいいよ」と賛同をいただいた方に嚮をお渡しする取り組みである。幼・小・中学校の子ども達に「このタスキをしている方は見守り隊の方だよ」と伝え活動を開始した。次代を担う子ども達の健全な育成に協力者から申し込みがあり、機運が盛り上がっている。気軽に参加できる体制づくりが課題である。

町内の51自治会の参加で盛大に開催ができた「加茂町民体育大会」は「参加して楽しい」「見て楽しい」「住民の交流が図れる」をめざした大会で幼児から高齢者までの参加があり異世代のふれあい交流ができる最大の事業であり、地域の関係団体との連携、公民館応援団の醸成が芽生えた。公民館を中心とした一層の地域の活性化が期待される。

幼稚園児のリズム運動、小学校全校児童の盆踊り、中学校全校生徒の集団マスゲーム

は地域の皆さんの温かい声援で大会が盛り上がった。今後の課題としては大会の継続と交流センター中心の実行委員会の充実に力を入れたい。

4. 今後の方向性

加茂公民館から加茂交流センターへ

加茂公民館は4月から加茂交流センターに移行となる。交流センターは多様な地域課題に対応し「自分たちの地域は、自分たちで良くしていく」ことを目標として、現在公民館で取り組んでいる生涯学習



機能のほか、地域独自の住民活動の支援、および地域福祉活動を集約して実施することにより、雲南市が目指す協働のまちづくりを実践するための施設となる。

モデル公民館として1年が終わろうとしているが、交流センターになれば、加茂町民が自ら地域の課題を掘り下げ、その解決に向けた自主的な学習・実践活動が多くなり、「地域力」醸成にも直接結びつくので、来年度もこの事業を通して地域が一層活性化するよう努力したい。